洛友會報

京都大学工学部電気系教室内
洛　友　会
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
075-753-5270
www.rakuyukai.org

情報技術が変える農業のかたち

東京支部長　安藤　隆朗（昭59年卒）

私は昭和61年に長尾研究室で修士課程を修了し、在学中には機械翻訳や画像認識といった、当時としては新しい人工知能分野の端緒に触れる機会を得た。当時の研究は統計的手法や特徴量設計が中心であり、現在の大規模学習に基づく手法とは大きく異なる前提のもとで展開されていた。

その後、三菱電機に入社し、データベースマシンやＩｏＴ関連システムの開発に従事してきた。データの収集・蓄積・処理に至るまでの情報処理基盤の開発に携わる中で、技術の進展を現場から体験してきた。入社当時、１００ＭＢ規模のデータが「ビッグデータ」と呼ばれ、ＯＳやデータベースも自社開発が当たり前であった時代と比べると、今日のデータ処理技術および人工知能技術の飛躍はまさに隔世の感がある。特に深層学習の実用化と社会実装の進展は、技術の質的転換を象徴するものと言える。

現在、私は農研機構（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）に所属している。一見すると電気工学とは距離のある分野のように思われるが、実際にはデータ処理技術やＡＩの進展は農業分野にも急速に浸透しつつあり、従来の「経験と勘」に依存した農業の姿を大きく変えようとしている。

農研機構は、農業および食品産業に関する研究開発を担う国内最大級の研究機関である。品種改良や栽培技術の高度化といった従来型の研究に加え、ＩＣＴやＡＩを活用した「スマート農業」の推進も重要な使命となっている。研究成果を現場へ還元し、生産性の向上と持続可能な農業の実現に貢献することが求められている。

現在の日本農業は、農業従事者の高齢化と担い手不足という深刻な課題に直面している。これまでの農業は、熟練農家の「経験と勘」に大きく依存してきた。しかし、これらは属人的であり、熟練農家の引退に伴い、技術やノウハウの再現性や継承の面で課題がある。このままでは国内の食料供給力の低下が懸念される。さらに、気候変動や国際情勢の変化により、輸入に依存した食料供給には不確実性が増している。こうした状況下では、省力化と高効率化を両立する新たな農業の実現が不可欠である。

この課題に対する有力なアプローチが、データに基づく農業である。環境データや作物の生育データ、市況情報などを統合的に活用することで、作物の品質向上と生産コスト削減を同時に実現しようとする取り組みが進められている。

その中核となるのが、農業データ連携基盤「ＷＡＧＲＩ（ワグリ）」である。ＷＡＧＲＩの本質は単なるデータカタログではなく、様々な基礎データと主に農研機構の研究成果を実装した解析サービスを統合的に扱う「データ基盤」にある。農業における意思決定においては、気象・土壌・生育・流通といった複数の領域にまたがる情報を同時に扱う必要があり、従来の分断されたデータ管理では十分な高度化は困難であった。ＷＡＧＲＩはＡＰＩベースのアーキテクチャにより、これらのデータと解析機能を疎結合で連携し、高い相互運用性を実現している。

例えば、市況情報、生育予測モデル、気象予測データといった異なる性質のデータやアルゴリズムを同一基盤上で組み合わせて利用できる。これにより、「将来の生育状況」と「その時点での市場条件」を同時に見通すことが可能となる。

具体的には、まず品種、土壌や栽培開始時期と予測される気温、湿度、日照時間などのデータを入力として、最適な施肥量、時期を推奨し、生育ステージの進行や収量、収穫可能時期を予測する。この際、圃場単位の位置情報と気象データを紐付けることで、局所的な環境差を考慮した推定が可能となる。次に、その予測結果をもとに、対象期間における市場価格のトレンドを市況データから抽出し、収穫・出荷のタイミングを最適化する。この一連の処理は、それぞれ独立したサービスとして提供されながら、ＡＰＩ連携によってパイプライン的に統合される。

このような連携が可能となるのは、ＷＡＧＲＩがデータフォーマットの標準化やメタデータ管理、認証・認可といった基盤機能を備えているためである。利用者は個別のデータ仕様を意識することなく、統一されたインターフェースを通じて複数のデータセットにアクセスできる。また、データ提供者側にとっても、自身のデータやモデルをサービスとして公開しやすくなり、エコシステム全体としての価値向上につながる。

このようにＷＡＧＲＩは、データ取得から解析、意思決定支援までを一体化した基盤として、農業のデータ活用を「点」から「面」へと拡張している。個別技術を統合することで、より実践的で高度な農業経営支援が可能となっている。

さらに、こうした取り組みは教育分野にも広がりつつある。将来の農業人材には、データやＩＣＴを活用する能力が不可欠である。実際に農業高校や大学では、セン

サーやＡＩを用いた実習が導入されており、データに基づく意思決定を学ぶ機会が増えている。私自身も昨年、本学農学部においてＷＡＧＲＩを活用した講義を担当する機会をいただいたが、学生が短時間で市況データを可視化するアプリを構築する様子に大きな可能性を感じた。

このように、農業と情報技術の融合は、日本農業が直面する課題を解決する重要な鍵となっている。電気工学を出発点とする私にとって、センサー、データ解析、システム設計といった知識は、この分野においても十分に活かされている。異分野の融合によって新たな価値が生まれることに、現在の仕事の大きな意義を感じている。

今後もデータと技術の力により、農業の可能性はさらに広がっていくであろう。持続可能で競争力のある農業の実現に向けて、研究と現場をつなぐ役割を果たしていきたい。

教室だより

学位記授与式

令和8年3月23日、電気電子工学科の卒業生送別会（洛友会との共催）が開催されました。みやこめっせにおける全学の卒業式に引き続いて、電気総合館大講義室での学位記授与式が行われ、下田宏学科長より卒業生一人一人に対して学位記が手渡されました。

送別会は電気総合館4階の北図書室ラーニングコモンズにて行われ、教職員を交えての歓談が行われ、名残惜しさのなか１３３名の卒業生が巣立って行きました。

電気系修士学位授与式

令和8年3月23日（月）に大学院学位授与式がみやこメッセで、引き続き電気系修士学位授与式が桂キャンパスで執り行われました。63名の方々が晴れて修士（工学）となられました。

電気工学専攻33名

伊藤寛泰、植松空雅、太田悠輝、大西恒世、大西大知、利田裕貴、小西信和、齋藤駿平、佐原怜一郎、下村昂平、髙橋士門、田中恵太、谷口泰斗、谷口太郎、坪田和也、土井瑛介、徳一壮太朗、永田こゆき、長田尚真、中田雅大、南部佑太朗、西川泰生、橋本陸、長谷川皓大、林汰樹、廣瀬駿、細谷陽司、本渡拓海、水谷匠、矢野佑樹、吉田永遠、吉村太志、WONGPRASERTKUN PORNPAILIN

電子工学専攻30名

相田晃太朗、伊東遼馬、井上悠月、榎本隆大、大西基、奥田功太郎、小野太暉、金坂知樹、上谷祐貴、北村篤史、古賀翔大、後藤啓文、坂本健伍、佐藤駿輝、柴田悠樹、白石健、鈴木大寛、髙濱章年、築島琢磨、永田歌寧、長谷部涼、干谷健太、松田卓大、松本凌芽、森倫太郎、八木雄大、山岡寛、吉田達紀、渡辺岳斗、李碩磊

新入生歓迎茶話会

4月7日の桜が満開の中、京都市勧業館みやこめっせで京都大学の入学式が行われ、午後からは電気総合館にて電気電子工学科新入生ガイダンスが行われた。

ガイダンス終了後には、電気総合館4階のラーニングコモンズにて新入生歓迎茶話会（洛友会共催）が行われた。学生会員として新たに入会した電気電子工学科の新入生（１３４名）が約10名の教職員とともに、会場に参集した。

佐藤高史学科長が挨拶され、洛友会の成り立ち、最近の取り組み、学生会員の意義などについて説明された。

お茶やジュースでの乾杯が終わると、たちまちに賑やかな声が会場に溢れ出した。出身地、志望動機、下宿やサークルなどの話題で盛り上がり、教員との初めての対面で将来に対する夢などの話題が弾んだ。歓迎茶話会を通じて学生同士の輪も広がり、友人、仲間づくりの第一歩となったようである。

本部だより

洛友会本部役員会報告

令和8年度役員会は、去る5月23日（土）正午より、京都タワーホテルにて、顧問、会長、副会長、9支部長、本部役員の合計19名の出席を得て開催されました。役員会は、昼食を済ませた後、北野会長の開会挨拶で始まり、船戸事務局長の司会で進められました。

まず、令和7年度事業報告と同決算、令和8年度事業計画と同予算案、役員の改選がそれぞれ審議承認され、総会に提案されることになりました。また、1名の推薦会員が承認され、洛友会報の原稿依頼が承認されました。

引き続き、支部活動の状況が各支部から紹介され、意見交換を行いました。各支部もその規模に応じて会員向けのさまざまなイベントを開催し、若手会員の掘り起しや会費納入率の向上に取り組んでいます。その中で、例年繰り返される悩みではありますが、やはり支部会員の高齢化や数の少なさから、長く培ってきた歴史の継承をいかに行っていくかに腐心している状況についての情報交換がなされました。一方、そういった悩みに対する取り組みの例として、若手会員の支部総会（懇親会）への参加費を減額する試みを行っている支部の様子の紹介もされました。加えて、個人情報の取り扱いについてますます厳しさを増す中で、各支部ともそこに拠点がある会社に新たに就職した洛友会会員の卒業生がいるとしてもその把握が難しいという話も、例年よく聞かれる話題となっています。この点については、洛友会の会員管理システムに会員の皆様がご自身の情報を適切にご入力いただき、問題のない範囲で入力項目を公開可としていただくことが、（支部との関係のみならず例えば同期の卒業生の方からもご覧いただけるようになるという意味からも）非常に重要であろうと考えております。また、各支部においてもそれぞれ独立にその地区に在住の会員の把握に努めておられますので、とくに会員数の少ない地方に就職、転勤や移住された会員は、是非とも支部へのご連絡をお願い致します。

推薦会員

（令和8年5月23日承認）

・通信情報システムコース

林　和則　教授：大阪大学

（2002年博士）

洛友会本部総会報告

令和8年度本部総会は5月23日（土）午後、京都タワーホテルにおいて、関西支部総会に引き続いて開催されました。会員52名の出席があり、令和7年度の事業報告と決算、令和8年度の事業計画と予算案の説明をあわせての洛友会本部報告が船戸事務局長よりなされました。その中で、役員会報告でも触れられております先輩と学生との交流会の昨今の事情も紹介され、今後の運営について費用面での検討を行う可能性があることも紹介された上で、令和8年度予算案の提示通りの承認が得られました。加えて、同じく役員会報告でも触れられております経緯の紹介も含めて役員の改選案について説明がなされ、改選案が承認されました。

続いて、電気電子工学科学科長を務める佐藤幹事より電気系教室の現況紹介がなされました。令和7年度の活動事業として、洛友会および電気系教室主催の先輩と学生との交流会や電気系教室懇話会の様子が紹介されました。この2つの会を同じ日に連続して開催するという実施形態を踏襲し、本年も11月祭の際の講義休講日を利用して開催とすることも案内されました。一方、大学改革支援・学位授与機構令和6年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）への採択に伴う、桂キャンパスの工学研究科電気工学専攻および電子工学専攻を1専攻化した電気電子デジタル理工学専攻の設置（令和8年4月1日設置）について、簡単な紹介がなされました。また、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプについての様子や学内の教員異動状況などが紹介されました。さらに、洛友会ホームページやそこから利用可能なWEB名簿管理システムについて、簡単に説明がなされました。その他、現在の京都大学の吉田キャンパスと桂キャンパスの風景の紹介や学生の就職状況の報告などが行われました。

なお、支部活動等の活性化と密接に関連する取り組みとして、1件あたり最大5万円の学年クラス会・支部活動費等補助の申請を以前より受け付けております。その申請が必ずしも多くない状況の中、より利用しやすいものとするために始めております取り組みをこの場を利用して改めてお知らせしておきます。申請の締め切りは毎年3月末日と9月末日になっており、それぞれそこから半年以内に開催予定の活動に対する補助を申請いただくのが基本になっているものの、「それぞれの締め切り日において、それよりも半年前までにすでに実施済みのものに関しても申請いただくことが可能」という運用をしております。開催後、もしくは承認後、30日以内に洛友会会報に掲載するための開催記事を送っていただくことになります。申請書は事務局に依頼いただければ送付いたします。洛友会活動のさらなる活性化につながることを期待いたしております。是非ともご検討ください。

役員の改選

令和8年度の役員は次の通りです。

顧　問	昭41	荒木　光彦（現）
会　長	昭50	北野　正雄（現）
副会長	昭61	松尾　哲司（現）
	昭58	角田　恭之（現）
	昭63	髙野登志裕（現）
幹　事	昭56	和田　修己（現：幹事長）
	昭54	守倉　正博（現）
	昭62	小嶋　浩嗣（現）
	平16博	佐藤　高史（新：学科長）
	平1	船戸　充（現：事務局長）
推薦		野村　泰伸（新）

会員寄稿

遠い平成元年

伊藤　篤
（平元年卒・東北支部）

今年、とうとう還暦を迎えます。平成元年卒が還暦になるのです。還暦になるというので、妻が私の下着（パンツ）を全て赤色に取り替えてしまいました。当初は大変恥ずかしく感じましたが、不思議なもので今ではすっかり慣れてしまいました。赤いパンツの進呈は、私に対する愛情の表れと前向きに受け止めています。ありがたいことです。

さて、還暦・・・50歳代とは響きがまるで異なります。どんなにがんばっても、60歳代は老人。誰が何といっても老人です。諦めましょう。老害と言われないよう、謙虚に振舞わなくては。地下鉄で席を譲られたら、遠慮なく座るのです。ああ、そんなにも人生が経過したのか、いよいよ人生も終盤戦だな、と感慨にふける毎日を過ごしております。

では、還暦目前の日々の暮らしをご紹介しましょう。そんな需要はどこにも無いと承知してはおりますが、同窓会の会報に免じてお付き合いください。

平日は毎日出勤しております。自宅から最寄り駅までは徒歩10分、乗車時間は15分で駅から職場までは雨に濡れずに辿り着けます。大変恵まれた通勤環境です。首都圏勤務の方が聞いたら信じられないと思われるでしょうか。目下の悩みは昼食です。一昨年まで、妻が弁当を持たせてくれたのですが、弁当作りを引退したため、ランチを食べる場所探しに迷っています。飲食店には困らないのですが、並ぶのが億劫で、かつ、毎日外食も味気ないものです。仕方がないので、外食とデパ地下で買った弁当を交互に味わっています。

一応、会社では責任ある立場ですが、何事もなければ定時で退社します。特に趣味もなく、帰宅するとテレビの時代劇チャネルを妻と一緒にボーっと見ています。子供たちは既に独立して家を出ています。老夫婦二人きりのお茶の間なのです。年を取ってからの妻は、午後5時までに夕食を済ませる主義なので、平日、私は一人で晩御飯を食べます。ポツリポツリと世間話をしながら、ゆっくりと夜の時間が過ぎていきます。基本的にはこの繰り返しです。

時々、コンビニジムに立ち寄って、軽く運動することがあります。加齢とともに、私の体つきが余りに貧相になり、フラついていたのを心配した妻が、このジムに通うようにとアドバイスをくれたのでした。ジムに通い始めると効果てきめんで、あっという間に上半身は逆三角形になり、ズボンの太ももも部分がきつくなりました。しかし、コロナ（？）に感染して数日間寝込んでしまった結果、せっかくついた筋肉はあっという間にそげ落ち、それ以降はトレーニングしても筋肉は戻らなくなりました。

また、お気に入りの寿司屋を楽しんだり、地場の居酒屋で一杯ひっかけてから帰ることもあります。寄り道は必ず一人です。自分のペースでゆっくりと時間を楽しむのです。若い頃は、一人で居酒屋に通うことは全くなかったのですが、これも年齢でしょうか。こぢんまりとした酒場のカウンターで、上品なおつまみを肴に純米吟醸をちびりちびりと味わう。秋田の銘酒を注文することが多いですが、東北のお酒はとにかく飲みやすいです。以前は日本酒は飲まなかったのですが、秋田で働いていた時に、地元の方々にたっぷりとその魅力を教え込まれました。

続いて休日の過ごし方に移りましょう。実は毎週のように温泉宿に宿泊して過ごしています。狙いの宿は家族経営のリピーター客で成り立っているような旅館です。泉質優先で選択しています。自炊設備があるような宿が好みです。したがって、古い宿が多く、一見して鄙びた外観の温泉旅館となります。周辺に娯楽や観光地ありません。滞在中は温泉以外に楽しむものは何もなく、ひたすら入浴を繰り返すのみ。中には崩れかかった廃墟寸前の宿に出会うこともあります。これが堪らないのです。温泉の匂いが身体や下着に染みつくと、帰宅しても温泉の余韻に浸ることができます。こうなると変態の領域といえるでしょうか。

ここまで温泉に執着するようになったのは、大震災以降です。あまりの出来事を経験したので、ひょっとしたら、無意識のうちに心の癒しを強く求めるようになり、それが温泉だったのかもしれません。旅館飯は不思議と大食いできます。一人でお櫃のご飯を空にしてしまいます。

その温泉宿ですが、廃業する宿が後を立ちません。コロナ禍以降、増えています。不景気、施設の老朽化、人手不足、そして何よりも後継者不在が深刻です。また、地震や水害の被害により、止む無く廃業する宿もあります。何百年と続いた宿が突然、その歴史に幕を下ろしてしまうのです。そんな状況なので、近頃は本当に焦っています。早くしないと、行きたいと思っていた宿が、明日にも廃業するかもしれません。そして、自分自身も老人ですので、いつまで元気で飛び回れるか。時間が足りないのです。

もちろん、時々は妻と一緒に出かけることもあります。妻は、建物が登録有形文化財に指定されているような宿が好みです。例えば、会津若松市の東山温泉向瀧です。会津藩の保養所だった宿で、建物は登録有形文化財の第一号指定を受けています。階段状に建てられた木造旅館は歴史の重みに溢れ、昔の湯治場の雰囲気を残した浴室には、自然湧出の熱い自家源泉がなみなみと注がれています。夏には蛍が舞い、冬には蠟燭の灯がゆらゆらと雪面を照らします。貴重な体験が得られます。これからの暑い季節には、温度の低い温泉、ぬる湯が楽しめます。山梨県はぬる湯の宝庫ですので、どのルートで湯めぐりするか、計画を立てる時間がまた楽しいのです。

しばらくは、このような日常が続くことでしょう。続けるための努力もします。何気ない日常ですが、還暦を迎える身としては、恵まれているなと感謝しています。本当に恵まれています。

最後に、この原稿は5月に仙台で書いています。東北は今、緑が最高に美しい季節です。食べ物、

酒、温泉とすばらしいものが揃っています。是非お越しください。

山道で受け継ぐもの

松室　尭之
（平24年卒・関西支部）

２０２３年４月より洛友会関西支部の幹事を務めております、松室尭之（まつむろたかゆき）と申します。２０１２年３月に電気電子工学科を卒業し、２０１７年３月に大学院電気工学専攻博士後期課程を修了いたしました（指導教員：篠原真毅先生）。修了後は龍谷大学先端理工学部で任期付き助教を５年間務め、２０２２年４月からは株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ＡＴＲ）波動ネットワーク研究所にて主任研究員として、無線電力伝送システムおよび無線通信システムの研究開発に従事しております。私生活では、８歳の娘と２歳の息子を育てる父でもあります。

この研究の道を歩み始めたきっかけは、浪人生活が決まったばかりの２００７年３月17日に遡ります。エル・大阪（大阪府立労働センター）エル・シアターで開催された「京都からの提言 ― 21世紀の日本を考える（第２回）」に参加し、当時京都大学副学長であった松本紘先生の講演で「宇宙太陽発電」という構想に出会いました。宇宙で集めた太陽エネルギーをマイクロ波で地上へ無線送電する――その壮大さに、将来の方向を模索していた私は目を輝かせ、初めて具体的な目標を得ることができました。さらに、京大３回生として研究室選びを控えていた２０１１年３月11日、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故が発生しました。エネルギーのあり方を自分の問題として考え、無線電力伝送の研究に進もうという意志を改めて固めた出来事でした。

２０２６年４月18日、篠原研究室のＯＢで比叡山に登りました。後輩の望月諒さんと梶原豪さんに声をかけていただき、三谷友彦先生、高原麦さん、兒島清志朗さんとともに計６名で参加しました。三谷先生と私以外のメンバーは関西圏の電子機器メーカーに勤務しており、久しぶりの顔合わせです。朝８時、比叡山坂本駅に集合して山頂を目指しました。まだ肌寒さの残る朝でしたが、天気は上々で、歩き始めるとすぐに汗がにじみます。梶原さんと高原さんは同期で、ともに登山を趣味としており、「今年からまた山歩きを再開するためのリハビリも兼ねて」と今回の企画を立ててくれたそうです。梶原さんがＡｐｐｌｅＷａｔｃｈで事前に計画したルートを案内してくれるという現代的な登山で、私たちは互いの近況を話しながら、春の山道を思いのほか速いペースで進みました。延暦寺に到着すると、法華総持院東塔のしだれ桜が満開で出迎えてくれました。東塔の前で皆と記念写真を撮りました（左から２番目が私です）。山頂で休憩と軽食を取った後、修学院駅方向へ下山を開始しました。少し霞がかかっていましたが、眼下には京都市内の景色が広がり、吉田山など学生時代から見慣れた風景も確認できました。下山中は、私の娘と息子の子育て話や研究室の思い出に話が尽きず、予定より２時間以上早い12時過ぎには修学院駅に到着していました。その後、百万遍近くの中華料理屋でにぎやかに昼食をとって解散しました。

実はこの比叡山登山は、私にとって２度目のことです。最初は２０１１年11月26日、篠原研究室を含むスペースグループ（山川研究室・大村研究室の３研究室）の親睦登山でした。大村研究室博士３年だった小路真史さんが企画してくださり、当時の私は４回生として研究室に入ったばかり、ちょうど卒業論文の中間発表を終えたところでした。女性メンバーもいて、ゆったりとしたペースで延暦寺まで登り、下りはケーブルカーで降りました。当時の集合写真では、後列左から３番目に若かりし私の姿があります。

当時の延暦寺では、静かに佇む根本中堂の姿が印象的でした。また、スペースグループのメンバーと甘酒を飲みながら、そこでほっと一息ついた時間も心に残っています。一方、今年の登山で再び延暦寺を訪れると、根本中堂は大改修の最中で、かつて見たお堂の姿は白い覆いの向こうに隠れていました。建具の黒漆の塗り直しを含む保存修理が進められており、工期は２０３０年９月30日まで延びているそうです。２０１１年から今回まで、15年近く。学生としてお堂の入口に立っていた自分が、研究者となり、父となり、今度は後輩たちと山道を歩いている。その事実に、建物の修理に刻まれる時間と、自分自身に流れた時間が重なって感じられました。

振り返ってみると、２０１１年

の登山は、単に同じ研究室の仲間との行事ではありませんでした。篠原研究室に加え、山川研究室・大村研究室も含めたスペースグループの親睦登山であり、研究室を越えて一緒に山を歩くというその場も、松本先生がスペースグループという形で結んでくださった縁の上に成り立っていたのだと、今になって気づきます。スペースグループや生存圏研究所を立ち上げ、京大総長も務められた松本紘先生は、２０２５年６月15日に逝去されました。２０２６年３月20日には、京都大学百周年時計台記念館にて「松本紘先生を偲ぶ会」が開催されました。会場には２５５名、Ｚｏｏｍではさらに１６６名が参加する大規模な集いとなり、山本衛先生の司会のもと、湊長博総長のご挨拶、山中伸弥先生の追悼の辞をはじめ、各界の先生方からのお別れの言葉が続きました。当日の様子は、生存圏研究所のウェブサイトに、式次第や写真とともにニュース記事として掲載されています。しめやかな会になるだろうと想像していましたが、生前の先生のユーモアあふれるエピソードが次々と語られ、お人柄が偲ばれる温かな時間でした。私が研究室に入ったころ、先生はすでに総長として宇治キャンパスを離れておられたため、直接ご指導いただく機会はほとんどありませんでした。それでも、博士課程のころ、先生の連載記事の取材に関連して研究室を訪ねられた際に、お目にかかる機会がありました。そのときに「頑張って」と声をかけていただき、握手していただいた、あの大きく温かな手の感触は今も忘れられません。

偲ぶ会で特に印象に残ったのは、「人と人との関係は宝物だ」という言葉でした。今の世の中は何かと忙しく、比叡山登山のように、ただ一緒に歩き、話し、食事をする集まりの機会は少なくなりつつある気がします。自分自身も、そういった場を率先して企画することが得意ではありません。だからこそ、今回声をかけていただいたことを、あらためてありがたく感じました。

今回の登山の途中、山頂付近で「我が道を行く」と刻まれた石碑を見つけました。「人と人との関係は宝物だ」という言葉と、「我が道を行く」という言葉。一見すると相反するようにも見えます。しかし、松本先生ご自身がまさに、人との縁を大切にしながら、宇宙太陽発電という誰も歩いていない道を切り拓いてこられた方でした。松本先生が築き上げてこられた大きな流れを知れば知るほど、自分の非力さを感じることもあります。それでも、無線電力伝送と宇宙太陽発電という夢を、遠くに仰ぐだけでなく、自分自身の歩む道として受け継ぎ、次の世代に伝えていきたいと思っています。

人との縁を大切にしながら、自分の信じた道を歩む。今回の山道であらためて心に刻んだのは、そのことでした。先人から受け継いだものを自分なりの歩みの中で育て、次の世代へつないでいけるよう、これからも一歩一歩歩み続けてまいりたいと思います。

支部だより

四国支部総会報告

令和８年５月15日（金）、高松市内の「リーガホテルゼスト高松」において、第71回洛友会四国支部総会が開催されました。近年続く物価高騰から、会員の参加率の向上と支部活動の持続性を守るため、事務局殿より例年からは場所を移しての開催のご案内となりましたが、出席者の皆様からは好評だったように思います。

教室からは久門尚史先生に御出席いただき、四国支部からは19名の会員が集まりました。会の冒頭にて、元電子工学専攻で、現在、四国大学学長をされている松重和美先生（京都大学名誉教授）が長年に渡り残された多大な教育研究の御功績により瑞宝中綬章を受賞されたことのご紹介があり、支部会員一同、心より祝福し、またその喜びを分かち合いました。

続いて、昨年の支部総会で新しく支部長に就任した松本氏（昭和60年卒）から挨拶があり、当年から総会会場を変更した点など、物価高騰等を踏まえての支部の運営の在り方について表明いただくとともに、自己紹介も兼ねた自身の経営する四変テック株式会社の歴史・事業内容の説明、さらには昨今のＡＩ技術の発展を受けての雑感をお話しいただきました。

次に、久門教授から本部の事業報告と電気系教室の近況について御紹介いただきました。今年度より、電気系の２専攻を１専攻化した「電気電子デジタル理工学専攻」に改組され、研究室の数も拡大されたとのご紹介をいただきました。改組に至るまでの過程や裏話も交えてご説明いただき、デジタル理工学との名称に時代の流れを感じつつ、そこに集う後輩たちの高度人材としての成長を願いました。

その後、四国支部幹事から令和７年度事業報告・会計報告と令和８年度予算案についての説明があり、満場一致で承認されました。

総会終了後は、四宮先輩（昭和41年卒）の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。懇親会の中では、久門先生や久し振りの友人・先輩とお酒を酌み交わしながら歓談を楽しみました。懇親会の最後には、恒例となっている「逍遥歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱を行って会を締めくくりました。

その後、二次会として、有志一同でうどんに次ぐ香川県の名物料理である「骨付鳥」を食べながら深夜まで親交を深めました。

池田　健輔（平19年卒）記

第71回 洛友会四国支部総会　令和8年5月15日　於 リーガホテルゼスト高松

関西支部総会報告

令和8年5月23日（土）、京都タワーホテル（橘の間・7F）において、関西支部総会が52名の参加を得て開催されました。

総会に先立ち、「クープマン解析と電力ネットワークのデジタル技術」と題して講演会を開催しました。講演会では、京都大学大学院教授の薄良彦様（平成12年卒）よりお話いただき、複雑な非線形事象をクープマン解析で線形として扱い、電圧の測定や車移動の測定に応用している例をご紹介いただくなど、参加者一同、大変興味深い講演会となりました。

支部総会は玉田総務幹事（平成7年卒）の司会のもと、西田支部長（昭和63年卒）のご挨拶で始まりました。令和7年度行事報告ならびに決算報告があり、また令和8年度行事計画および予算編成ならびに令和8年度関西支部役員改選について審議され、承認されました。続いて令和8年度の新役員に選任された、

支部長　井上　欣也（平成元年卒）
副支部長　松浦　康雄（平成2年卒）
総務幹事　玉田　浩一郎（平成7年卒）（昨年から継続）
会計幹事　中野　信一（昭和62年卒）

の各氏が紹介されました。また、支部総会に引き続き本部総会が開催されました。

総会終了後には懇親会が開催されました。洛友会会長の北野先生（昭和50年卒）のご挨拶の後、乾杯のご発声をいただきました。懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。恒例の洛友会の歌を一同で斉唱した後、最後に洛友会顧問の荒木先生（昭和41年卒）より締めのご挨拶をいただいて散会となりました。

中山　正人（平9年卒）記

中国支部総会報告

令和8年5月29日（金）、ホテルグランヴィア広島およびオンライン会議（Ｚｏｏｍ）のハイブリッドにて、第73回洛友会中国支部総会を開催いたしました。現地会場にてご参加いただく支部会員の皆様の利便性も考慮し、今年度は広島駅付近での開催としました。洛友会本部から松尾哲司先生にご出席いただき、中国地方各地から現地会場、オンライン合わせて23名の会員のご参加をいただきました。

支部総会は、平岡幹事の開会宣言で開会されました。支部事務局から支部会員異動状況、令和7年度の支部活動状況・会計決算、令和8年度活動計画・予算案、支部役員の選任についてご説明・ご提案を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。支部役員の選任では中国支部長の交代についてもご承認いただき、前田前支部長および今田新支部長から、ご退任・ご就任のご挨拶をいただきました。以後、中国支部では新役員体制となりますので、よろしくお願いいたします。また、卒業後10年以内の中国支部会員を対象に、支部総会参加費の半額を支部負担とすることも引き続き活動計画に織り込んでおります。若手の支部会員の皆様も、お気軽にご参加下さい。

続いて、松尾先生から、電気電子デジタル理工学専攻の設置を含む電気系教室の近況、卒業生の進学就職状況、洛友会本部の事業、役員の交代等についてご紹介いただきました。

支部総会終了後、記念撮影を行い、昭和45年卒業の松井先輩のご発声により懇親会を開始しました。支部会員同士、思い出話や近況報告を交えながら、終始和やかな談笑の中で大いに懇親を深めながら会は進み、昭和30年卒業の秦先輩のご発声で、懇親会をおひらきとしました。今年度ご参加いただけなかった方におかれましても、来年度以降は是非ともご参加いただきますよう、お願いいたします。

伊藤　達理（平22年卒）記

北陸支部総会報告

２０２６年5月30日（土）、北陸支部は福井県福井市の料亭 開花亭にて、令和8年度支部総会を開催しました。本部から船戸充先生にご出席いただき、北陸支部からは13名が出席しました。

総会に先立ち、船戸先生から窒化物半導体の有機金属気相成長と物性評価・デバイス応用に関する講演が行われ、青色発光ダイオード（ＬＥＤ）の材料である窒化物半導体（窒化インジウムガリウム）の光物性やこれまでの研究・開発の歴史、今後のデバイス応用に関する展望などを中心に関心の高い内容をご説明いただきました。出席者からは様々な観点から数多くの質問がなされ、短い時間ではありましたが、活発な講演会となりました。

支部総会では、冒頭、笠原支部長よりご挨拶をいただき、今回の総会は北陸新幹線敦賀延伸後初の福井開催となりましたが、北陸3県が新幹線で結ばれたことにより、地域間の距離がより身近に感じられるようになったとのお話がありました。また、今後も支部活動や各種イベントを通じて、北陸支部会員相互の交流を深め、より強固な人脈・ネットワークを築いていきたいとのご挨拶がありました。続いて、船戸先生から本部・電気系教室の近況として、教員の方々の異動状況や学生のイベントなどについてご紹介いただきまし

た。最後に、幹事から支部の近況報告、決算報告、支部役員案（今年度は変更なし）の説明を行い、満場一致で承認されました。

総会終了後、記念写真を撮影し、その後、懇親会を開催しました。金森評議員（昭40卒）の乾杯で始まり、出席者が懐かしい思い出話に花を咲かせました。また、自己紹介や近況報告を交えながら、歓談を続け、楽しいひと時を過ごしました。会の最後では琵琶湖周航の歌を出席者全員で合唱し、久和副支部長（昭47卒）の締めの挨拶・万歳三唱で散会となりました。

次回の北陸支部総会は、例年通り来年5月下旬～6月中旬頃に、金沢市内で開催する予定としております。日程等の詳細については、支部幹事より改めて案内いたしますので、是非多くの会員の方々の出席をお願い申し上げます。

金谷　賢一（平19院卒）記

支部役員（変更なし）

顧　問　中島 恭一（昭40）
　　松木 純也（昭44）
　　葛原 正明（昭54）
支部長　笠原 禎也（平元）
副支部長　久和　進（昭47）
評議員　金森 閲治（昭40）
　　柴田　明（昭40院）
　　西念　勉（昭46）
幹事　石丸 哲也（平元）
　　林　正則（平5）
　　金谷 賢一（平19院）

第124回関西支部ゴルフ競技会報告

〈プレー状況〉

第124回関西支部ゴルフ競技会が令和8年5月16日（土）有馬富士カンツリークラブにて開催されました。

当日は晴天であり、暑さが少し懸念されたものの、怪我や体調不良も無く、プレーを楽しむことができました。アウトは松尾氏（S38年卒）、インは大澤氏（S44年卒）の始球式でプレーを開始し、合計20名（うちシニア7名）が最後まで楽しく競技に汗を流しました。

結果は次のとおりとなりました。（敬称略）

（シニアの部）

優勝　吉田　豊彦（S56年卒）
2位　大澤　靖治（S44年卒）
3位　松尾　茂（S38年卒）

（一般の部）

優勝　吉田　健人（R4年卒）
2位　遠藤　紘矢（R3年卒）
3位　一木　将人（H7年卒）

また参加者は次のとおりです。

（敬称略）

S38　松尾　茂
S38　平嶋　正芳
S44　大澤　靖治
S49　西　亨
S53　阿部　正之
S56　美濃　由明
S56　吉田　豊彦
H7　一木　将人
H15　西村　英孝
H18　大和田　淳
H22　杉本　幸薫
H26　三木　穂高
H27　依田　学樹
H28　出口　樹
H29　藤田　秀眞
H30　喜多　謹仁
R3　遠藤　紘矢
R4　吉田　健人
R5　小林　宇翔
R5　寺西　直希

〈表彰式〉

プレー終了後、一木氏（H7年卒）の司会により、表彰式が開催されました。

表彰式は平嶋氏（S38年卒）のご挨拶からはじまり、吉田豊彦氏（S56年卒）、吉田健人氏（R4年卒）より優勝報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

〈お知らせ〉

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回（春・秋）にゴルフ競技会を開催しております。次回は令和8年10月17日（土）を予定しております。同期などお誘い頂くことで老若男女を問わず多数ご参加頂けることを心待ちにしております。

第１２４回 関西洛友会ゴルフ競技会 参加者集合写真

〈連絡先〉

一木　将人（H7年卒）
喜多　謹仁（H30年卒）
連絡先　070-2447-6143（喜多）
kita.norihito@e4.kansai-td.co.jp

訃報

昭15　松本　清隆
昭23　河島　純孝　8・3・16
昭24　舟田　正男　8・3・1
昭27　田村　隆一　7・11・28
昭28　渡部　和　8・4・5
昭28　木本　巖　8・2・15
昭29　安賀　隆志　7・8・9
昭33　高橋　昌平　6・10・14
昭33　高見　宏彦　7・10・31
昭34　鎌田　幸成　8・5・6
昭34　川本　幸雄　8・4・26
昭34　深尾　正之　8・4・28
昭35　上林有一郎　8・5・15
昭36　山下　正義　7・10・21
昭38　阿川　泰　7
昭38　関　清三　7・5・10
昭39　辻　康次郎　7・9・3
昭39　酒井　保良　7・9・17
昭40　小淵　洋一　7・10・5
昭41　上村　泰資　7・11
昭45　荻山　嗣晃　7
昭46　有松　年治　8・2・11
昭47　近藤　哲郎　7・10・21
昭47　平野　洋一　8・1・15
昭49　木野　高史　7・6・24
昭52　松崎　裕　8・2・17

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。